

## 校長室の窓からNo. 8 (H28. 9. 28)

### シリーズ 「ふるさと＝夢を育む十勝の大地②」 ～ふるさと「帯広・十勝」の特色（1）～



帯広市は、道東地区の十勝平野のほぼ中央に位置し、都市と農村、自然環境が調和した田園都市になっています。そして、碁盤目状道路網とワシントン市を模した斜交道路網が組み合わさった都市形状も斬新かつ独特と言えます。

帯広・十勝は、日本有数の晴天率と寒暖差が大きい内陸性の気候を誇っています。年間では、夏は30度を超える日があり、逆に冬は氷点下20度前後まで冷える日もあります。一日の中でも時には20度前後の寒暖の差があります。晴天率の高さを利用し、ロケット開発地域(大樹町)に指定されたり、太陽光発電に適した地域でもあります。また、寒暖差の気候条件を加えて、農業に適した気候となっています。実際、寒暖差によって、農作物の甘味・旨味が増すということが科学的にも証明されています。

さて、本市から遠く山々を望みますと、北は大雪山系、西部は日高山脈、東部は阿寒方面の山々に囲まれ、景観がとても素晴らしいことに気づきます。高台やビルの屋上に立つと、四季折々の雄大な山々と自然が望めます。聞くとここによりますと、そんな景観に感動し、帯広市以平町、帯広市桜木町等、その高台に家を構える人も多いと聞いています。また、その山々からは、利別川・札内川などの無数の支流を生み出し、十勝川本流に合流し、肥沃な大地を形成し豊富な水が供給されています。帯広の水道水の源水は、清流日本一に過去8回輝いた日高山脈より流れる札内川の伏流水となっています。特に、名水「おびひろ極上水」は、超軟水として有名で、料理のうま味成分や日本茶などの香りを引き立たせると言われています。名水「おびひろ極上水」については、帯広市上下水道部総務課庶務係（電話0155-65-4211）にお問い合わせください。



(写真：おびひろ極上水 (校長室で撮影))

帯広・十勝一帯は、豊富な水と肥沃な大地を活かし、農業が基幹産業となっています。農業は、機械化され、大規模農業を展開しています。畑作、酪農・畜産により、小麦・豆類・甜菜・馬鈴薯・長芋・乳製品・肉類等が生産されています。その生産量は大変多く、十勝の食糧自給率は、1100%を超え、日本の食料供給基地としての役割も担っています。例えば、帯広市大正のメイクイン芋、池田町の十勝ワイン、芽室町の馬鈴薯やトウモロコシ、音更町の小豆や大豆、鹿追町及び新得町のそばなど、全国ブランドの宝庫になっています。特に、帯広市川西町の長芋、中札内村の枝豆などのように、高品質・美味しさから海外に進出している農産物もあります。

また、かなり前から、健康志向などで日本食が世界でブームになっていますが、平成25年12月に、「和食（日本人の伝統的な食文化）」がユネスコ無形文化遺産に登録されたことで、日本食ブームを加速させる結果となりました。なお、流通事情やコスト面、品種改良等、課題も少なくありませんが、これからが大いに期待されるところです。